

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立館山さざなみ小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・館山の自然環境を生かした身近な事象を取り上げ、体験・活動することで、児童の関心・意欲につながった。
- ・「仮説、実験・観察、結果、まとめ」の流れを定着させることで、科学的な思考・表現を身に付けることにつながってきた。
- ・実験器具などをそろえて、少人数で活動できたことで、器具の取り扱い方などの技能面の理解が定着した。

(2) 課題

中学年

- ・基礎的な知識の理解が不十分は児童がいる。なお、短答や記述など自ら回答を記入する問題では目標値を下回ってしまった。授業でのノートへの記述の際に、根拠や原理などを記入することにより、正確に理解できなかった学習事項を定着できるようにしていきたい。

高学年

- ・実験を行っていく上で、数値の変化から科学的な事象を読み取り思考することが苦手な児童がやや多い。また、記述が目標値を下回っているので、知識の定着を図るとともに、実験の結果から、分かったことをワークシートなどに書いていくことを数多くしていくことと、書いたことを発表し合うことを授業で行って学力の向上を図ってきたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	全体的に目標値を下回っている。		
第5学年	目標値を下回っているのが約半数ある。分類によっては、区の目標値を上回ってものがいくつかある。	ほとんどの分類で目標値を上回っている。一部の短答式と記述式の問題では目標値を下回っている。	
第6学年	全体的に目標値を下回っている。	目標値を全体的に下回っているが、分類によっては区の目標値を上回っている。	全体的に目標値を下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識を理解しているところはあるが、ただ全体的に目標値を下回っている。言語化やノート記述を重ねることにより、正確に理解できなかった学習事項を確かなものに定着させる。	全体的に目標値を下回っている。実験の具体的な方法や実験の結果を比較することを行って考える力をつけさせる。	全体的に目標値を下回っている。自然の事象に興味・関心を高くもてるようように、体験的活動を積極的に取り組むことのできる児童を増やす。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識を理解している児童とそうでない児童がおり、目標値を下回ってしまっている。復習を重ねることにより、正確に理解できなかった学習事項を確かなものに定着させる。	実験を行っていく上で、数値の変化から科学的な事象を読み取り思考することが苦手な児童がやや多い。また、記述式の回答を苦手になっている児童も多い。	5・6年生とも目標値を下回る学習事項がある。実験や観察を意欲的に取り組もうとする態度は伝わってくる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実験器具の使い方や名称、操作の仕方を実験ごとに確認するとともに、既習事項についても振り返りを行う。 ・自然の生き物の飼育や植物の栽培を継続して行い、以前と比べることなどをして、確認を丁寧に行う。	・自ら問題を解決させていく上で、「なぜ」という問いを常に発し、学習の方法の型を定着させる。計画の段階でどのような手法を用いれば解決できるのかを自分なりの考えをもつこと大事にしていく。	・自然観察や科学的実験の時間に意欲がみられるようになってきているので、そのことを称賛し、がんばりを認める。 ・観察したり、実験から分かったりしたことを、図に描いてまとめ、発表し、称賛し合う場面を多く取り入れる。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・教科書の図やイラスト、動画などを用いて視覚的な理解を促し、知識の定着を図る。 ・観察や実験の重要なポイントを的確に教え、その上で習熟させる。 ・実験の様子をイラストや言葉でまとめさせることで、何を目的とした実験なのかをしっかりと理解させたうえで実験に取り組ませる。	・学習方法の型の「計画」の段階でどのような手法を用いれば解決できるのかを時間をかけて思考するようにしていく。 ・自分の考え方と友達の考え方を比べることを多く行い、思考・判断力を高めていく。	・身近な事象を取り上げ、学習とつなげるようにする。 ・館山の自然を生かして、関心を高めていくようにする。 ・学習のゴールを確認し、そのために必要なことを自分の意見を言うことや友達の意見を聞きながら授業を進めていく。